

マラウイ・エヌクウェニ通信その6

2019年9月13日

Tawonga chomene. (タオンガ チョマーネ) 英語で Thank you very much. 日本語で「ありがとう」を意味するマラウイ北部の現地語「トゥンブカ語」です。

マラウイに派遣されてから 24 か月目です。派遣中最後の支援として、私の配属先で管轄している小さな村 HOLERA (ホレラ) 地区乳幼児健診会場の屋根の修繕についてお知らせします。

協力隊を育てる会 小さなハートプロジェクト

「マラウイの田舎の乳幼児健診会場に屋根を作ろうプロジェクト」

私の任地、マラウイ、ムジンバ県エヌクウェニにあるホレラ地区は、人口約 1,500 人が暮らしています。ホレラ地区では、5 歳未満児約 250 人に対し、小学校の校庭を利用して野外で乳幼児健診を実施していました。

乳幼児健診に参加する母子からは、健診の都度 MK50- (50 クワチャ 約 8 円) ずつ集金し、乳幼児健診の運営に役立てています。例えば、野外健診に必要な竹ごぎ、ベンチ、そして、健診会場建設等の準備金です。

2018 年 3 月には、地域住民の自助努力とホレラ地区の有力者の協力により、乳幼児健診の会場となる土煉瓦とトタン屋根のヘルスポストが建設されました。会場は、床のセメントが塗られていない、ドアや窓が無い、トイレが無いといった環境ですが、念願である屋内健診が実施可能となり、運用を開始することができました。

しかし、運用後間もなく、突然の強風により、トタン屋根がすべて吹き飛ばされてしまうという、突発的な事故にあってしまいました。せっかく建設したヘルスポストが一瞬で使えなくなってしまい、屋外での健診を継続することになりました。住民たちがやっとの思いで資金を集めて建設したヘルスポストのため、さらに修繕費用を捻出するのに時間もかかっており、修繕できない状況が続いていました。

私は活動の中で、ホレラ地区担当のヘルスワーカーに対し、乳幼児健診や予防接種の技術支援を実施しています。このホレラ地区は、赴任当初から乳幼児健診の環境が良くなかったため、気になっていました。

その理由として、野外での健診は、天候にも左右され、晴天時は直射日光が子どもたちを照らし続け、熱中症の危険性も高まります。雨天時の健診は、小学校の教室を間借りするも母子の集まりが悪い日もあります。これは、乳幼児健診の機会を逃すばかりではなく、一緒に実施している予防接種の機会まで逃してしまい、子どもたちの健康を脅かす恐れもあります。私がヘルスワーカーに技術支援をして、彼がその技術を身につけたとしても、屋外での健診ではその技術が十二分に発揮できないことも予想されます。ヘルスポストが機能良く使えないことは、乳幼児が健康に生きるための支援に支障が出る恐れがあることを意味しています。

そこで、このヘルスポストの役割を考え、巡回を重ね、施設の効果的な使用方法やトイレ設置の提案をしたり、よりよい環境づくりに協力してきました。また、先輩隊員から寄付していただいた古着を販売し資金調達したり、筆記テーブルを作成し寄付したりなど、出来る限りの環境改善に協力してきましたが、ヘルスポストの屋根の修繕費用まではなかなか追いつくことができないのが現状でした。

そのため、2019 年 4 月、協力隊を育てる会が実施している「小さなハートプロジェクト」に地区担当ヘルスワーカーと一緒に屋根の修繕費用を申請することにしました。

このプロジェクトは、ホレラ地区に天候に左右されず、安心して乳幼児健診を受診できる機会と場所の提供、ひいては地方の小さな地区に住む乳幼児に対しての総合的な健やかな成長を支援すること、ただ支援を待っているだけではない住民たちの自助努力に力添えをしたく、建設途中になってしまった乳幼児健診会場であるヘルスポストの環境整備を支援したいために計画しました。

【写真】 屋根が無くなったヘルスポストの外で乳幼児健診



HOLERA 地区 Health Post 修繕工事

繕工事

この申請は、採択され、約 160,000 円もの金額を、友人知人を始め日本の皆様から支援していただくことが決まり、

修繕工事に着手することができました。

修繕工事は、JICA 専門家からのアドバイスをもとに、担当ヘルスワーカーや任地の大工と打ち合わせを重ね、彼らの持っている現地での技術を最大限に生かして着工へと進みました。

現地には、大型重機も無く、すべて手作業による施工です。修繕作業員たちは重い材木も人力や牛車で運び、近くに井戸も無くバケツで水を運んでセメントと砂を練ってのモルタル作りはもちろん、昼食は現場で自分たちで作って食べて、作業に取り組んでいました。また、ボランティアで作業のため、本来の仕事に支障が出ないように、土日に修繕作業を実施していました。

7月の乳幼児健診日には、集まる母親たち全員が土煉瓦を運ぶのを手伝い、地域一丸となって修繕作業に参加していました。

この修繕作業で一番気がかりだったのは、現地修繕作業員たちの安全です。屋根の高さは、高い所で4.2mもあるため、高所作業中にバランスを崩して転落でもしたら大きな怪我につながります。幸いにも彼らは安全第一で、しかも彼らの落ち着いたペースで作業してくれたため、誰一人怪我することなく、大きな事故にも至りませんでした。

毎回の進捗状況の確認では、現場に行くたびに作業員や住民たちから、「Tawonga chomene. (タオンガ チョマーネ)」と感謝され、ヘルスポストを修繕できることにたいへん喜んでいました。そのため、支援してくださった日本人の皆がマラウイの人たちの健康を願っていることを伝えました。

実は、マラウイ人からは、挨拶代わりに「Give me money.」という言葉がかけられることがよくあります。また、「Malawi no money.」、「Malawi is poor country.」と国を表すような言葉かけもたくさん聞くこともあります。お金が無いから何もできなというわけでもないと思いますが、金銭の貧しさが挨拶を忘れてしまうような心の貧しさを作り上げるのは良くないと思っています。

しかし、ホレラ地区のマラウイ人たちは、ほんの少しの手助けで、地区担当ヘルスワーカーを中心にビレッジヘッドマンたちが修繕作業の地域会議を行い、住民たちはボランティアで、しかも手作業でも修繕をやり遂げてしまう実行力があります。また、地域一丸となって完成させたこのプロジェクト完遂の実績は、他の地域のマラウイの人たちの見本となる地域だとも思いました。

これからは、完成したヘルスポストの定期的なメンテナンスを継続しつつ、数年後に再度マラウイを訪ねた時には、ヘルスポストを有効活用することで、子どもたちが健やかに育ち、地域住民が健康に生活してもらいたいと思っています。

全6回で、マラウイ・エヌクウェニ通信は終了です。ボランティア活動について読んでいただき、ありがとうございました。



屋根のトラス設置の様子



レンガ運搬を手伝う親子



おかげさまで持ちまして、ホレラ地区では、安心した環境で乳幼児健診を継続実施できます。皆様からの支援に住民も大変感謝しております。

今回、このプロジェクトにご賛同いただきました皆様、ありがとうございました。

※マラウイ エヌクウェニ通信に書かれている見解は、著者個人のものです。